

特集

# 曾於市で 生きる企業たち

曾於市には誇れる企業があります。「曾於市から世界へ」「全国から曾於市へ」  
どんどん進んでいくそんな企業を今回、3社取材してきました。

# 日本有機

末吉町諏訪方

曾於市でできること

有機肥料の先駆けともいえる日本有機。そこだけに留まらず、様々な分野に広がりを見せています。

いいと思ったものを組み合わせ、いいものをつくっていく

—日本有機さんはやはり有機関係の事業をされているんでしょうか

そうですね、友人に「これからは有機の時代ですよ」と言われて応援する意味で有機肥料などの有機資材事業を始めました。その頃は化学肥料が万能だと言われていたので、「農薬が売れなくなるからやめてくれ」と言われたりしましたが、今では三大事業のひとつとして会社を支えてくれています。

—三大ということは、他にも…?

ひとつが、薩摩鴨ですね。当社では、孵化という1次産業、処理・加工が2次産業、販売の3次産業まで、今でいう6次産業まで行っています。

—貫して行う会社というのは珍しいんでしょうか

孵化をさせて、合鴨水稲する農家さんに渡したら終わりというのが多くて、農家さんも困ってそのまま川に離してしまったりしていたので、環境問題になっていました。それを鹿児島大学の先生から「日本有機でやってほしい」と言われて、やり始めたんです。

—まったく違う分野なのにやろうってなるのがすごいですね！そしてもう一つは？

代表取締役会長

川崎 暢義

人脈ってすごく大事  
いい人も悪い人も両方

1977年創業、有機肥料の製造・販売として設立。現在は有機資源事業の他に、薩摩鴨事業、健康食品事業などを持つ。自社販売製品である「さつまいも冷麺」が、日本エアコミューターのうちわに採用され、全25路線にて配布、また実際の商品を機内で販売している。(7月末頃終了予定)

もうひとつが、サプリメント。健康食品事業です。今、当社には「くろず納豆」と「麴の和み力」の2つがあります。

—これまでとまた全然違う分野ですね

これもその分野の博士から「にんにくと納豆をサプリにしたらいよ」と言われて。そのとき、とある社長に話したら「川崎さん、鹿児島なんだから黒酢もろみも入れなきゃ」と言われて、「いいねそれ！」ってやったら、すごくよかった(笑)

—会長はなんでもやるんですね

いいなって思うものを組み合わせるんですよ。

もうひとつの「麴の和み力」は、にんにくに麴菌を生やすことに成功しまして、これ世界初なんですよ。

—それはすごいですね

「麴の和み力」も「くろず納豆」も、効果が早いみたいでたくさんお手紙がくるんですよ。「花粉症に効いた」とか「不眠症が治った」とか。

—そういった科学的というか、サプリメント開発などをされていたことがあるんですか

いや、東京では都市開発をしていたので全然ですね。50代でこっちにきて、有機肥料をやろうと思ったから畜産の町で面白いって聞いていた末吉にきたんです。



大きくなって戻ってきた薩摩鴨。農場は広く、ストレスが少ない環境下でクラシックを聴かせながらしばらく育てる。



薩摩鴨の雛。この状態になってから農家に引き渡し、大きくなったら水田に放たれ、虫や雑草を食べる。

—曾於市にいらっしやったのも、人からの勧めだったんですね

人脈って人生ですごく大事なんですよ。いい人も悪い人もいるけど両方必要ですね。

僕は、自分よりベルの高い人と付き合うようにしているから、すごく得してるんだと思いますよ

—最後に、日本有機のこれからを教えてください

「くろず納豆」と「麴の和み力」はこれからアジアでも販売していく予定です。台湾に住んでいる方が「ぜひ、こちらでも売りたい」と言ってくださったので、台湾を始めとして、香港や北京など中国にも広がっていくんじゃないかと思っています。

薩摩鴨も、鹿児島大学と協力して改良を進めているので今後も楽しみにしてください。

## プレゼント情報

インタビューにも出てきました日本有機のサプリメント「くろず納豆」「麴の和み力」を6名様にプレゼントいたします！応募方法など詳細は [38 ページ](#)をご確認ください。



**くろず納豆**：花粉症・鼻炎が気になる方、季節の変わり目がつらい方に。くろずもろみ・納豆・にんにくの3つの元気パワーがカプセルにギュッと詰まった健康食品です。

**麴の和み力**：眠りが浅い方、肌の調子を整えたい方、ストレス・イライラに。世界初のにんにくと麴菌が融合した健康食品です。

## 取材メモ

「会社で失敗があると社員は《会長がやった》って言うんだよ、僕が関係ないときも。まあその方が「また会長か」「会長ならしょうがない」ってなるらしいんです」と笑いながら話してくださいました川崎会長。今なお、新しいことへの貪欲さを忘れない会長の下だからこそ、社員のみなさんも挑戦ができていたのだと感じました！



## 常にオンリーワン ナンバーワンを 目指していく

代表取締役社長

# 益留 福一

1986年創業。「小さな大企業」を目指し、絶え間ない商品開発を続ける。人間が行っている作業を代わりに行う機械（=自動省力機器）の設計から製作まですべて一貫生産し、そのジャンルは食肉関連や電子部品、自動車部品関連などとても幅広い。

### 曾於市から世界へ

国内外から10万人もの関係者が集まる国際食品工業展でも、かなりの注目を集めたマトヤ技研。改めて今後の展望をお伺いしました。

**「独立しようと決めた時から「世界に持つていけるものを開発する」と思っていた」**

—南日本新聞で「豚肉肋骨はく離機シェア」日本一」という記事を見たので、食肉の機械専門かと思っていたのですが、ほかに色々とされているんですね

そうですね。食肉関連だけでなく、電子部品の生産装置や自動車部品の生産、組み立てをする装置などもやっています。

ひとつの分野だけだと景気の影響をかなり受けやすくなってしまうから、バランスをとれるようにしないと。

—沿革をみると、一番最初に開発したのは「寝たきり者用入浴補助具（家庭向）」とありますね

寝たきりの人をお風呂に入れるのは大変だし、介護関係は補助金が出るので作りました。まあ、実際につくったのは3台くらいだけだね（笑）

—そのあと、全く違う分野の「ミート用肋骨剥離具ミスターテンダー」の開発になっっていますがまたガラッと…

やっぱりここは畜産の町ですし、ナンチクさんに知り合いもいたので、機械のニーズもあるんじゃないかなど、工場を見せてもらっただけです。

その時に、骨を抜く作業をしている人たちが大変そうだったから「これができる機械を開発させて欲しい」とこちらからお願いたんです。

—向こうからではなく、マトヤ技研さんの方からだったんですね

そうですね。ナンチクさんに協力してもらいながら開発して、完成まで2年ぐらいいかりました。

会社を始めた当時は商工会の名簿をもって一軒一軒まわって色々な提案をしながら仕事をもらっていたりもしたんですよ。

— 開発には時間がかかるんですね

人がやっていた作業を機械にどう反映するかと考えて、設計して、部品を作って、組み立てて：しかもやってみたいとわかっていないから、根気との勝負です。でも、やっている面白さ、達成感がある。

このミスターテンダーは最初の年で120台くらい売れて、かごしま産業技術賞と発明協会の知事賞をもらえました。

これで食肉業界にも広まって取引も増えたので、そのあとも大腸切開機など開発を続けて、今では50種類以上あります。

—なぜ、剥離機や切開機などをつくるうと思っただんでしょ

やっぱり難しい作業、人手だと大変な仕事を機械にさせないと機械は売れない。オンラインワンでナンバーワンを目指さないと。

それに、独立を決めたときから「特許のとれる開発をして、世界に貿易ができる会社に」と思っていたので、世界中で使われるものをつくりたかった。

ミスターテンダーはすぐに海外の工場に使われるようになりました。



右手が本社。左手は昨年できたばかりの新工場。本社は曾於市だが、工場は県境を越え、宮崎県都城市になる。

—夢は叶ったんですね。今ではどれくらい会社と取引されているんですか

海外だと15カ国ほどで使われています。国内だと全国で200社くらいですかね。食肉の会社さんと7割はうちの製品を使ってくれています。

**絶えずに改良・開発をしていく。途中で挫折したら何にもならない**

—今はどのくらいの社員がいらっしやるんですか

営業、開発、設計、組み立て、大阪営業所などもいれて全部で46人ですね

—益留社長自身も設計をされていたということですし、技術者集団という感じですね

うちでは営業も組み立てを全部経験するんですよ。機械を知らないと言えないから。

全国をまわるんですが、営業しながら簡単な修理もしちゃう。お客さんたちは喜びますよ。

—そんな営業さんと心強いですね。

—そうやって現場で聞いたお客さんの意見を反映させて、自分とこの機械をどんどん改良する。

—開発の人も大変ですね…

うちではだいたい5つぐらい同時進行で開発を進めている。そうすると、ひとつ行き詰っても置いといて、他のことをやればいいんですよ。

—できないってことはないんですか

それは、ないね。しばらくしたら「あれをこうしたらいいん

じゃ？」っていうのが出てくるから。出てくるまで置いとけばいい(笑)

挫折してしまったり何にもならないから。これができたらどれだけの仕事かとれるとか、やらないと先がないと思えば、諦めずに進める。

—最後に、曾於市で会社をやっている良かったと思うことはなんですか

私はここが地元だから帰ってきたんだけど、そこその会社をつくって、帰ってくる人や地元で就職する人たちを受け入れられる会社になりたいのもあったんです。自分も実際、大阪から仕事を辞めてきたから。今では都城市の高校から新入社員もくるし、Uターンの受け皿にもなってる、よかったと思っています。



創業当時から目標であった特許も、今では23保持している。現在申請中のものもあり、次々と開発を進めている。

## 取材メモ

技術者！といった説得力あふれるお話をしてくださった益留社長。開発の話は素人の私でもわかりやすく教えていただきました。マトヤ技研として一番最初の仕事は、末吉町にある太陽漬物の野佐根社長（当時は主任だったそうです）からの依頼だったそうで、地域のつながりをすごく感じました！

財部町北俣

# たからべ 森の学校

## 地域の方の やさしさが決め手 でした



サイバーウェーブ  
代表取締役  
小野 公裕

本社であるサイバーウェーブ（鹿児島県鹿児島市）が運営する職業訓練校。農業の人材育成をメインとする訓練校は県内ではここだけであり、全国的にも珍しい。農業人材育成科だけでなく、調理補助者養成科、農産加工販売科、農業生産・アグリビジネス科など、調理関係などの訓練も行う。

### 曾於市に職業訓練校を

立ち上げから3年。今では全国から問い合わせがくるといふ農業の職業訓練校に。運営元であるサイバーウェーブにこれまでの話を伺いました。

曾於市に来ていたうちに、**ここを拠点に思うようになった**

―運営元であるサイバーウェーブはどんな会社なのか

サイバーウェーブはホームページ制作とその運営支援をやっています。企業の採用向けのホームページだったり、観光協会だったり様々ですが、企画から取材、記事作成まですべて行っています。

―曾於市の観光協会や曾於市役所の公式ホームページもお世話になってます…

そうですね。曾於市さんとの一番最初のお仕事が観光協会のホームページ「そおナビ」でした。半年間、専任スタッフを市役所に置かせてもらって、取材から写真まで一から全部作らせていただきました。私自身も週に3日くらいは曾於市に来て、色々まわったりして。

―その時から曾於市で何かやるぞというのはあったんですか

なんとなく「ここを拠点にくりたいな」くらいに思っていました。本社は鹿児島市内にあるんですけど、もうひとつ拠点が欲しいなと思っていて。その時に曾於市に来て「ここだったら色々メリットがある」と。

— メリットということ？

曾於市のまわりには、霧島市、鹿屋市、都城市という大きな都市があるので、ホームページ制作の営業拠点にしたなら、どこにも行きやすいなと思ったんです。偏らずに色々なところに行ける。それで曾於市内でいい場所はないかと探していたんです

— 最初から職業訓練をやるうというのではなく、営業拠点として選んだんですね

はい。でも、ただ営業拠点を一つくっても売上げが立たないので、何か売上げを確保できる事業がないかと考えていた時に、職業訓練校を思いつきました。大隅町にハローワークはあるけど、職業訓練校は曾於市内になかったの。

— そうしたら、財部北中跡地でなにかやりませんか、という募集が市からあって、これだ！と思って、トントンと決まりました(笑)

**ここにくると自然と気持ち  
が上がると自然と気持ち  
いい循環ができています**

— 職業訓練校ってもつと固いイメージがあったので驚きました

他にないですよ。こんな、訓練中の写真をバンバンホームページ



農産加工販売科の授業中の様子。受けに来る方の年齢は様々で、県外から通う人も。

— ジに載せてる訓練校(笑)

この間もどろんこ祭りに出たり、マルシェとかも呼ばれたので出店したり、色々しています。

— 地域の方とすごく交流しているイメージがあります

— そうですね。地域の方には本当にお世話になっていて。ここに来るときも、そのやさしさが決め手でした。

— 立ち上げ当初の機械がないときは、トラクターを貸していただけで、教えてもらったりもしました。本当にありがたいです。

— 写真を見ると、訓練生の方もすごく楽しそうですね

— それがすごくプラスになってるんです。職業訓練にくると不安だし、気持ち的には一番底にいてと思うんですよ。私も訓練校に通っているときは、そうだったんですけど。

— だけど、ここにくると自然といみみで。地域の方との交流も場所も、すごく癒される。結果的に前向きになって就職も決まってる、いい循環ができています。

— 今後やっていきたいことはあります

— 森の学校を始めて丸3年たって、おかげさまで職業訓練の方は安定してきたので、次は一般の方が自由に学校にきてもらえるようにしたいな、と考えています。

— 具体的には？

— まず、カフェをやろうと思っ

— ます。去年、恋活をやった時にご飯を食べた部屋で参加者の人に「ここ、普段はいつ開いてるんですか」って聞かれたんですよ(笑)

— ここがカフェになったら、気軽にお茶を飲みに来てもらえるんじゃないかな、と。キッズスペースも作るうと思っていて、今進めています。

— 今度はカフェなんですけどね！とても楽しみですよ

— 他にも、今年も恋活イベントをやりますし、お化け屋敷をやるうとか色々あります。うちの会社って何の会社だっけってスタッフは思ってるんじゃないですか(笑)

— だけど、うちは「ホームページ制作会社」じゃなくて、「企画として、ホームページを使う会社」なので、提供するサービスの真ん中には企画があるんです。

— これから地域の交流の場として、どんどん発展をしていきたいと思ってるので、よろしく願います！



学校では座学や調理実習を行っている。農業訓練のための畑も学校からすぐのところであり、地域との交流も多い。

## 取材メモ

訓練の実績のない会社が職業訓練校を新規で立ち上げるのはほぼ不可能らしく、「農業で人材育成」でなければ、始められていなかったとおっしゃっていた小野社長。社長が柔軟に、できることを考え続けたからこそ、今この場があるのだなと感じました。発展し続けるたからベ森の学校、今後も楽しみですね！